

今井地区

構成自治会連合会：今井



太田川沿いの豊かな恵まれた地区で、近隣への交通アクセスも良く、教育施設とコミュニティセンターが隣接している子育てしやすい環境です。防災意識が高く、地域活動も活発で、住民同士のつながりを大切にしている地域です。

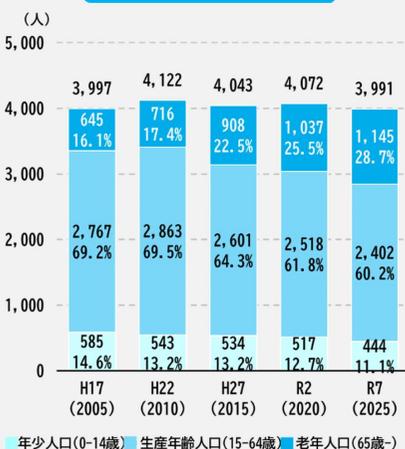
現状 (SWOT 分析「強み」から)

1. 太田川や田園に囲まれた自然豊かな環境で、空気がきれいな地域です。
2. 住民同士の顔が見える関係と助け合いの文化が根付き、世代を超えた交流が活発です。
3. 水田やメロン温室による米やクラウンメロンの栽培など、農業が盛んです。
4. 太田川が近いため、過去の災害の記憶を忘れずに、防災意識を高く持ち、地域で安心して暮らせるまちづくりを推進しています。
5. FTA(ファミリー・ティーチャー・アソシエーション)という理念のもと、家庭と地域、学校が協力して教育を支えており、子どもがのびのび育つ環境があります。
6. 住民参加の地域活動(文化祭やすぽふえす、納涼祭、演芸発表会など)が盛況です。
7. 祭典や手筒花火など積極的に地域文化の継承が行われています。

課題 (SWOT 分析「弱み」から)

1. 公共交通機関が不足しており、車がないと生活が不便です。
2. 商業施設・飲食店・医療機関や世代を超えて人が集まる環境・施設整備が求められています。
3. 太田川周辺の軟弱地盤による地震発生時の液状化や、大雨による内水氾濫など、災害リスクが高く、流域における情報共有や対応の見直しが求められています。
4. 少子高齢化が進み、若年層の流出により地域の活力や担い手が減少しており、地域づくりを支える人材育成が課題となっています。
5. 子どもの遊び場、子育て支援の場が少ないとの声や、今井小学校の児童が二つの中学校に分かれることによる地域の一体感への影響が懸念されます。
6. クラウンメロンなどの地場産品の魅力が十分に知られておらず、発信力の強化が求められています。
7. 担い手不足や耕作放棄地(田・畑・ハウス)の増加により、農地の維持・活用が難しくなっています。

人口推移



まちづくりの方針図



スローガン 目指すまちの姿

みんなが集い、笑顔が広がる
にぎわいとつながりを大切にするまち

まちづくりの推進方針

1. コミュニティセンターを中心に、地域資源を活かしたまちづくり

コミュニティセンターを拠点に、地場産品や豊かな自然などを活かしたイベントや活動を通じて、地域のにぎわいとつながりを生み出します。誰もが集い、交流し、地域の魅力を感じられるまちを目指します。

2. 多様な人が安心して暮らし、笑顔でつながるまちづくり

子どもから高齢者、外国人まで、誰もが安心して暮らし続けられる地域を目指します。SNSなどを活用して活動の見える化を進め、地域の笑顔とつながりを広げます。

地域内の取組

- コミュニティセンターを拠点に、地域の特性・資源を活かしたにぎわいづくりの推進(マルシェ、音楽フェスなど)
- 地域の子どもたちを地域全体で見守り、育て、支える活動の継続と発展(FTA「ファミリー・ティーチャー・アソシエーション」宣言の理念に基づいた活動と啓発、子どもが健やかに育つ環境づくり)
- まちづくり協議会活動の情報発信力の強化(SNSを活用した活動の見える化、地域のつながり強化をサポート)

- デジタルでの情報発信や看板設置による地域活動の見える化
- 太田川の美化活動の継続による自然環境の保全
- 地域乗り合いタクシーなど、新たな地域交通手法の検討
- 防災教育の強化と伝承(災害記録の展示、デジタル化)や避難場所の再検証

- ◇ 都市計画道路森町袋井インター通り線建設促進事業
- ◇ 県道浜北袋井線交差点改良事業

○ まちづくり協議会が主導する取組 □ 協働による取組 ◇ 行政が主導する取組

地域のみなさんの声 (取組を進める上で参考となる意見など)

- 今井地区の全戸台が一か所に集合するなど、にぎやかになるとよい。
- 市全体のバランスを考慮した計画づくり、耕作放棄地対策、内水氾濫を想定した治水対策をお願いしたい。
- 他市では小学生に起業体験する活動が行われているが、袋井市でもできないか。
- 自治会役員・民生委員の引き受け手がない。自治会内だけでは解決できない。
- 開発が進むことにより排水路の増水も懸念される。水田を活用して田んぼダムを広げてほしい。
- 災害時に、広域的な災害情報、復旧の情報を入手しやすくしてほしい。
- コミュニティセンターを起点とした新しいモビリティを運行してほしい。
- シニアクラブの結成を呼び掛けてほしい。
- 年齢や国籍などに関係なく、誰もが住みやすいまちづくりが必要だと感じる。
- 遊休農地を借りて家庭菜園を行うなど、農を活かした取組が地域資源の活用につながると思う。
- 七夕豪雨など災害記録の展示やデジタル化など、後世に伝えていくことが大切である。